

平成 25 年度第 6 回企業向け人権啓発講座（第 20 回障害のある市民の雇用フォーラム）

日 時：平成 25 年 11 月 13 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 5 時

場 所：京都市総合教育センター 4 階 ホール

全体会

発表（1）京都市の総合支援学校の企業就職に向けた取組について

京都市立鳴滝総合支援学校 3 年 藤谷 真緒

京都市立西総合支援学校進路指導主事 大橋 康男

発表（2）就労している卒業生からの発表

京都市立白河総合支援学校卒業生（日本新薬株式会社） 石田 沙雪

— 発表（1） —

○藤谷 御紹介いただきました，京都市立鳴滝総合支援学校 3 年藤谷真緒です。

○大橋 京都市立西総合支援学校進路指導主事の大橋です。

まず，京都市内の支援学校における就労のための進路指導について説明します。

京都市内には，高等部を持つ支援学校が 7 校あります。そして，京都市立白河総合支援学校と京都市立鳴滝総合支援学校の 2 校に職業学科を設置しています。また，白河を除く 6 校に普通科を設置しています。北・東・西・呉竹の 4 校は，京都市内を四つに分けた地域制の総合支援学校です。鳴滝の普通科には主に筋ジストロフィーなどの筋疾患の生徒が，隣接します宇多野病院に入院しながら通学しています。京都教育大学付属特別支援学校は，京都市とその周辺地域を通学区域とする特別支援学校です。これら 6 校の普通科にも，企業就労を目指す生徒がいます。

現在，平成 25 年度に卒業予定の高等部の 3 年生は 212 名ですが，そのうち企業就労を目指している生徒は 77 名です。昨年度は厳しい情勢の中にありながら，企業様の御理解により，59 名の卒業生が就職しました。

それでは就職を目指している職業学科について，藤谷さんから説明します。

○藤谷 職業学科は鳴滝と白河の 2 校に設置されていて，卒業後の企業就労に向けた取組を進めています。鳴滝では生活産業科の専門教科として，メンテナンス，クリーニング，福祉・介護を設置しています。本年度 4 月から白河総合支援学校東山分校が開校し，これまでの学舎の岡崎キャンパスと，新しい東山キャンパスとで日々の授業や活動が展開されています。岡崎キャンパスでは，産業総合科の専門教

科として食品加工，農園芸，情報印刷が設置され，東山キャンパスでは，地域総合科の専門教科として地域コミュニケーションが設置されています。両校とも専門教科によっては，専門の知識と技術を持った方を特別非常勤講師としてお招きしています。それぞれ専門的なスキルを身に付けながら，同時に働く意欲や態度を学んで，様々な職種での実習を通して働くということを体験的に積み重ねていきます。また生徒の希望と適性に合わせて，クリーニング師やホームヘルパー2級の資格，ワープロやパソコンの資格検定にも挑戦しています。なお，ホームヘルパー2級講座は，今後，介護職員初任者研修に変わります。

○大橋 職場体験実習は，様々な職種の事業所に実習をお願いしています。主な職種は，スーパーのバックヤード業務，オフィスやビル，病院，福祉施設などのメンテナンス，ホテルや旅館の客室清掃，食堂の厨房での食品洗浄，福祉施設でのランドリー業務等です。事務系の仕事でも，請求書と納品書の日付や数字を確認する伝票整理や，社内でのメール便の配達，不要な書類のシュレッダー，書類の整理や補充など，知的障害のある方ができそうな仕事はたくさん埋もれているように感じています。今後は，そういった職種での実習をお願いできたらと考えています。また，実習の希望時間や期間は学校によって少しずつ違いますが，基本的には事業所の御都合に合わせて相談をさせていただきます。

それでは，実際に生徒たちが体験している実習の様子を藤谷さんに紹介してもらいます。

○藤谷 これはパン屋さんでの実習です。食べ物を扱う仕事なので衛生面的には特に気を遣います。

この方はクリーニング師の国家資格を持っていて，ブライダルの貸衣装にアイロンを掛けています。卒業生の先輩に教えてもらって，汚れやほつれがないかチェックしながら丁寧にアイロン掛けをしています。

これは福祉施設での実習です。在学中にヘルパー2級の資格を取り，介護の仕事を目指しています。利用者様の安全に気を配りながら仕事をしています。

化学工場での事務補助の仕事です。パソコンのエクセルを使って化学薬品のラベルを作っています。製品の種類がたくさんあるので間違えないように気を付けています。

ゴルフ場の浴室の清掃です。営業開始時間までに仕上げられるよう頑張っています。

これは物流会社のバックヤードでの仕事です。季節によって色々な野菜や果物を扱います。20キロぐらいの野菜の入った段ボールを運ぶこともあります。

食堂での食器洗浄です。昼食の時間帯にはたくさんの食器が流れてきます。落とさないように慎重に扱っています。

○大橋 次に職場体験実習までの流れを簡単に説明させていただきます。

まず、実習の受入れをしていただける事業所に実習の担当者がお伺いします。そこで仕事の内容を見せていただき、生徒にできる仕事があるか、どういう手順で仕事を組み立て直せば生徒が自分でできるようになるか、通勤にはどのような交通手段が使えるかなど、実習が可能かどうかの見極めをさせていただきます。

次に、生徒の人選を行います。生徒たちは、障害の程度や得意なことや苦手なことが一人一人違っています。手順の分かりやすい仕事であれば、飽きることなくコツコツと取り組みます。コミュニケーションが苦手なので、人に話し掛けられると必要以上に緊張してしまうとか、特定の音や臭いどうしても我慢できないなど、学校の中だけでは分かりづらいことでつまづいてしまうこともあります。実習の期間中、生徒たちは自宅から直接事業所に通いますので、通勤の手段や時間も考慮するなど、ジョブマッチングは実習がうまく行くための大切な要素になっています。

実習先と生徒が決まれば、事前に具体的な内容を打ち合わせます。何時から何時までの作業か、休憩時間や場所、通勤してきたときにどの入口から入ってどなたに声を掛ける必要があるのかなどです。また、直接担当していただく職員の方にも、実習生の特性などをできるだけ事前にお知らせします。生徒には仕事の内容や必要な準備物、通勤方法などについて説明し、一緒にこの実習で何を頑張るのかという具体的な目標を確認していきます。実習が生徒にとって成功体験になるよう失敗を防ぐ準備を整えます。

実習開始の1週間ぐらい前には、本人が教員と一緒に事業所を訪問します。職場を知り、実際にどのような仕事をするのか、家を何時に出れば始業時刻に間に合うのかなどを確認します。また、職場では、実際に一緒に仕事をする現場の方にも事前に紹介していただき、お互いの不安を解消することでスムーズに初日を迎えることができると考えています。保護者にも面接時や実習初日に職場に出向いていただき、どんな所でどんな方と一緒に働いているのかを知っていただき、実習の期間は家庭でも支援をお願いしています。

実習が始まると、初日は学校から実習担当の教員が同行します。生徒と一緒に作業をすることもありますが、仕事そのものを教えるのではなく、コミュニケーションの取り方を伝えたり、分かりやすくするための手順書作りに協力したり、スムーズに仕事ができるように支援をします。慣れてきたら徐々にフェードアウトし、生徒が自分の力でやり切れたと思えるような黒子の役に徹します。

実習中は、必要に応じて、実習担当の教員や担任が観察に伺うことがあります。また保護者が見学に行くこともあります。しかし、食品関係の事業所や病院など部外者の立入りが難しい職場もありますので、担当の方と十分に連絡を取るようになっています。また職場で困っておられることや本人が困っていることがあれば、その都度解決するように動きます。

実習の最終日には、本人・保護者・学校が同席をして、まとめを行います。実習期間における本人の意欲、スキルなどについて職場から評価を頂き、同じ職場で同僚として働くとしたらという観点で、職業人としての評価もお願いしています。そこで出てきた課題は学校に持ち帰り、今後の授業で取り組んで解決を図ったり、次の実習の目標にするという形で今後の活動にいかしています。

その職場で雇用を考えておられる場合は、実習を通して就労の可能性はあるか、生徒にこの職場で働きたいという意欲があるかどうかを確かめます。そして可能性がある場合は、目標をステップアップしながら再度の実習をお願いすることになります。

○藤谷 私たちも就労に向けて、実習に取り組みながら、頑張っているところです。この後の分科会で、詳しくその様子をお伝えしたいと思っていますので、是非御参加ください。

私たちは同じ仕事でも、職場の大きさや一緒に働く職員の方、使う道具一つで、全く別な仕事と感ずることがあります。一人一人がそれぞれの力を発揮して働くためには、より多くの職場が必要です。色々な職場や仕事を経験する中で、一番力を発揮できる就労先を見付けることは、私たちはもちろん事業所にとっても大きなメリットになると考えています。私たちは実習や雇用を考えていただける機会を求めています。

○大橋 職業学科では、デュアルシステムとして企業と学校とのパートナーシップの下で、職業人として人材育成を行う進路指導を推進しています。デュアルシステムは、在学中からの長期の実習を通して、企業が必要とする実践的な知識や技術を身につけ、卒業後スムーズに職場に移行できるようにするための支援システムです。この雇用フォーラムは、京都市立総合支援学校デュアルシステム推進ネットワークと共催しています。

○藤谷 私たちは同じことを黙々と繰り返す根気強さがあり、定型反復の仕事は得意です。また、言葉での指示より、手順書や図に描いて目で見て分かる方法で指示をしていただくと、分かりやすい方も多くいます。一人一人の特性に合わせた支援を頂きながら、真面目に一生懸命に取り組む姿勢は職場の方からも褒めていただいています。それ以外にも色々な職域が広がっています。レジの仕事やサービス業、事務の仕事や福祉施設での後方支援業務など、私たちが働く姿を見ていただく中で可能性が広がりつつあります。

○大橋 まずは各支援学校にお電話を頂けたらと思います。学校ごとに企業向けの学校見学会もやっています。可能な方法を学校と一緒に探していただけたら、生徒にとっても企業にとっても、共にプラス

になる方法が見付かると考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございました。続きまして、総合支援学校の卒業生が就労体験を発表させていただきます。白河総合支援学校卒業生で、日本新薬株式会社に勤務されています石田さん、よろしくお願いいたします。

— 発表(2) —

○石田 御紹介いただきました石田沙雪です。私は平成 24 年 3 月に白河総合支援学校の産業総合科情報印刷を卒業し、日本新薬株式会社に入社しました。あっという間に 1 年半が過ぎました。今から、仕事を通じて学んだことや感じたことなどを発表します。

現在、私は人事部人事課に所属しており、主にデータ入力などの作業を行っています。その中でとても重要と感じている仕事は、労働者名簿の入力業務です。全社員分の情報を入力し、全国の事業所への連絡を行っていますので、間違いのないよう丁寧にしなければなりません。また、人事部には人事課のほか、採用研修課、労務・労政課、社員課の四つの課があり、それらの課の仕事のお手伝いもしています。そのほかにも研究所でリネン作業やコピー作業を行ったり、広報部で子ども文学賞の事務局業務を行っています。入社して 1 年半で色々な仕事を体験することができました。

今、仕事をするうえで私が大切にしているのは、スピードを意識することです。仕事に慣れるまでは間違いのないように丁寧にゆっくりとやっていたのですが、繰り返し経験することで間違いも少なくなり、徐々に慣れることができましたので、次はスピードを意識するようと言われてきました。色々な方々からたくさんの仕事を依頼されるので、一つ一つの仕事を丁寧に手早く行うことを心掛けています。これからも正確さとスピードを意識して色々な仕事に挑戦したいと思います。

今後も苦勞することもあると思いますが、人事部の皆さんと協力して仕事を進めていくことが大事だと思っています。これからも続けていけるように自信を持って頑張ります。以上で私の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

(全体会 終了)